

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立津高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒 2 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2 目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれた組織風土の中で、自らの専門性を高め、「チーム」として協力し合って教育活動に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・質が高く、能動的に取り組むことができる授業 ・安全・安心で充実した学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・総合的な学力の伸長と進路希望の実現 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学力と人間力の伸長、進路希望の実現に向けた教育活動の充実 ・安全・安心な学習環境 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で信頼される「公立進学校」として、将来の社会を支える市民を育成 ・地域の活性化につながる教育活動 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な学校生活・学習環境 ・子どもの人間的成長と進路希望実現 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の学力および人間力の伸長 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての資質や態度の育成 ・地域活動への生徒の積極的な参加 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的研究への理解と興味・関心の喚起 ・人的、物的な教育資源の活用 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・「自主・自律」の伝統の継承 ・同窓会活動における在校生との交流 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校教育方針への理解と協力 ・相互の信頼に基づく意思疎通 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・市民性、社会性を育む学習機会の提供 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な研究活動の機会や場の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・「自校教育」の機会の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○授業アンケートで、「主体的学習者の育成と確かな学力の向上」において「ほぼ満足」「満足」が9割を超える成果は特筆すべき点である。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等への取組結果がうかがえる。</p> <p>○「文化活動の推進」の改善課題、「防災教育」の改善課題を具体的にわかりやすくし、実践に繋げるように取り組むべきと考える。</p> <p>○図書の子供貸出率が目標値を超えたことは好ましい。図書館を情報センターと位置づけて、データサイエンス教育への対応等、組織的活用を充実していくべきと考える。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「自主・自律」の精神を受け継いでいくためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まるよう学校全体で組織的に取り組んでいく必要がある。 ○「深い学び」を実現するために、一人一台端末やICT機器を効果的に活用して教育活動を進めていくことが求められる。 ○新教育課程の実施をふまえ、授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについて教科横断的な視点から進捗状況を把握しながら進める必要がある。 ○生徒の資質を多面的、多角的に把握し、人間力の伸長につながる指導ができるよう、研修等を通じて一層の力量の向上に努める必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、取り組み内容が中学生や保護者だけでなく県内全体に広く伝わるよう、学校のホームページの改善等を行い、効果的に情報発信をしていく必要がある。 ○一人一台端末やICT機器を授業において効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効率的に取り入れるなど、教職員の負担にならないように進めていく必要がある。 ○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、適切に情報共有を図り、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。 ○スクールサポートスタッフ（SSS）の活用により、時間外労働時間の縮減は一定進んでいるが、会議時間の短縮や定時退校日の設定等により、一層の業務削減に取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「高い志」「自主・自律の精神」を育成し、学習活動だけでなく、スポーツ活動・文化活動等、あらゆる側面で充実した高校生活を送ることができるよう、生徒一人ひとりの人間力を高める。 2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進、ICTを活用した取組等、授業を中心とした教科指導を充実し、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導を充実することにより、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 3. 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、倫理観、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組む。 4. SSH事業を全校体制で推進し、生徒一人ひとりに「探究心」を醸成し、「創造性」「協働性」「課題解決能力」を育み、国際社会で活躍できる人材を育成する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員の資質能力の向上に取り組むとともに、教職員同士が教え合い、協力し合うことによって、さまざまな課題に「チーム」として取り組む組織力ある学校づくりを行う。 2. 教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を強化し、学校力を高める。 3. 業務の精選、総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が情熱とやりがいを持って生徒に向き合い、健康で働くことのできる環境づくりを行う。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的学習者の育成と確かな学力の向上	<p>◇質の高い授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等に組織的に取り組み、質の高い授業づくりを目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート(年2回)の実施 ・ICTを活用した授業についての情報発信及び共有の促進 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的」および「深い学び」に関するアンケート項目「学んだことを活用し、深く考える場があった」について、生徒の回答の③「ややあてはまる」および④「あてはまる」の割合の合計の値が90%以上、かつ④の値が40%以上 <p>【昨年度実績】</p> <p>前期 ③ 46.0% ④ 41.6% ③+④ 87.6% 後期 ③ 52.4% ④ 37.8% ③+④ 90.2%</p> <p>◇主体的な学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期指導を充実させ、主体的に学ぶという意識付けをしつつ、徐々に手を離していくことで、生徒の自律を促します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの1・2週間程度を「ガイダンス週間」と位置づけ、全ての科目でガイダンスを実施。 ・1学年においては一人一台端末の活用のための土台を形成するための「Chrome ガイダンス」を実施 ・学習意欲の向上を図るため、「高い志」を持たせるとともに「学ぶ意義」を意識させることを、継続的に発信 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組んでいるか」について、生徒の回答の②「だいたいできている」および③「できている」の割合の合計の値が80%以上、かつ③の値が33%以上 <p>【昨年度実績】</p> <p>1学年(現2学年)② 52% ③ 25% ②+③ 77% 2学年(現3学年)② 54% ③ 30% ②+③ 84%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3月の後期授業アンケート結果「学んだことを活用し、深く考える場があった」の回答は③+④が84.5%(R3後期比2.9%減)、④が39.6%(R3後期比5.5%減)でした。 ・R4年5月末本校実施の一人一台端末活用状況アンケート結果 毎日使う 53.0% 週に4-3日使う 42.0% 週に1-0日使う 5.0% ・教員向けのICT活用研修を計3回行い、参加者の合計は29名(重複あり)でした。 ・R4年10月教育委員会実施の一人一台端末へのログイン頻度の調査結果 30-21日 7.7% 20-11日 23.1% 10-0日 69.2% でした。 ・2月実施の「学校生活アンケート」「意欲的に学習に取り組んでいるか」結果：1学年②54%③22%(②+③76%) / 2学年②45%③31%(②+③76%) 	◎

改善課題

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や探究的な学びの推進等については、授業アンケートの結果、高い水準を維持しているように見えますが、質的な面で専門家を交えて改善していく必要があります。
- ・本校ではアンケートや申込み、情報発信などのICT化を進めていますが、それらはスマートフォン等からアクセスしていると考えられますので、授業での活用については、使用頻度が少ないのが現状です。しかし、授業や学習課題における効果的な活用事例は増えてきていますので、今後事例の整理・共有を進めていきます。またSSH探究活動での活用で生徒のスキルも向上しています。教員向けの研修も実施しています。利用制限等は安全面を考慮しつつ、必要最小限にしており、生徒・教員が互いに寛容で自由に端末を活用できる環境を整備していくことを継続します。
- ・「新教育課程」による教育活動を展開しつつ、その中で見えてくる問題点・改善点をふまえて、よりよい教育課程を編成していくことも必要になってきます。生徒が主体的に活動できるための時間の確保、および教員の働き方改革の面からも先進的な学校の取組を参考にしながら、教育課程をより効果的で洗練されたものにしていく必要があります。
- ・これらの課題について組織的に取り組んでいくことが求められます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「高い知性と教養を持ったリーダー」の土台となる「自主・自律」の精神の涵養を目指し、生徒が必要な情報を自ら分析・判断し、実際の行動に移せるような資質を養うことを目指す <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来について考えられる機会の提供【生徒参加企画等】 ・日々の学習と社会の接点が意識できるような活動を提供することによる社会貢献の意識の向上【授業内活動等】 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一進路希望実現率等 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRや長期休暇等を活用し、進路について調べ、まとめる活動を各学年で実施できました。 ・新型コロナウイルスの関係で中止になった校外活動を、徐々に復活し、従前に実施していた企画を行うことができました。具体的には、東大キャンパスツアーやフィールドワーク、医療系現場の見学などです。 ・62%の生徒が11月時点の志望校(国公立、私立含む)に出願し、そのうち56%が合格しました。 	※

改善課題

・ICTの活用をさらに進め、生徒の進路学習の充実をはかることができると考えます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 人権を重んじ、自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2 生徒の自主性を大切に人権学習を展開します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で行う人権アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで約9割の生徒がよかったと評価しました。 	◎

改善課題

・様々な人権問題を、身近な自分に関係ある問題として捉えることのできる課題設定や授業内容をさらに考えていく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の確立を目指します。 2 社会生活におけるマナーの向上を目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全・登校指導週間、完全下校巡視、校内巡視、情報モラル・命の教育講座の実施 ・生徒会活動、HR活動、部活動、課外活動を奨励します。 ・各種教育活動の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入率等(90%以上の継続を目指す) ・互いの人格を尊重し、他人を思いやる心を育成します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種集会での講話等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導を実施することで、通学路の生徒の安全やマナーの向上、挨拶の徹底につながっています。 ・生徒会行事や部活動を通じて、元気で、積極性のある生徒の育成を目指しました。 ・互いの人格を尊重することをねらいとし、集会等での講話を実施しました。 	※

改善課題

・昨年同様、安全で安心な学校生活を送るためにトラブルの早期発見・解消ができる体制作りを強化し、共有していく必要があります。

・スマートフォンの使用について、さらなるマナーやルールの徹底をはかる必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
国際教育	<p>◇SSH事業、マレーシア研修等を活用した国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視野の育成を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾の高校生との交流回数と内容(オンライン含む) ・次年度SSH台湾研修の計画立案 <p>◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会主催の海外研修等への参加を推奨します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流活動参加生徒の、のべ人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾中山高級中學等の生徒達との交流をオンラインで10回実施しました。参加生徒数はのべ157名でした。 ・中山高級中學との姉妹校協定を締結しました。 ・県教委主催の高校生オンライン海外交流に5名の生徒が参加しました。 	

改善課題

- ・各種団体の主催する国際交流活動について、全校生徒への広報の仕方をさらに工夫していく必要があります。
- ・オンラインでの取組も含め、生徒が国際交流を体験できる機会を積極的に確保していく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
文化活動の推進	<p>◇読書生活指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校図書館は、「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーを育成するため、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努める。また、文化活動を通じて文化的教養を育成します。 <p>【活動指標、成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書環境の整備、利用の促進(貸出8,000冊、生徒貸出率50%) ・分掌・学年・教科等との連携、およびSSH、LHR、授業等への支援 ・読書感想文コンクール、読書感想画コンクールへの応募、及び上位入賞 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた、文化・学習にかかる情報収集と情報発信 ・図書館文化講演会、ビブリオバトル、ギャラリー展示、青空図書館、図書館Live、車座トーク、図書館図鑑講座、みんなの本棚、他生徒参加企画の実施 <p>◇芸術鑑賞の奨励</p> <p>1 PTA主催の芸術鑑賞補助事業等への参加を積極的に促します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業等への参加人数 	<p>貸出 8,883冊 生徒貸出率 48.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事として以下を実施しました。 青空図書館、匠の部屋、マッピングパーティー、図書館図鑑活用講座、一志病院との連携企画、文化講演会、図書館ライブ、車座トーク、校内ビブリオバトル大会、朗読劇 ・第68回青少年読書感想文コンクール結果 [三重県審査] 最優秀賞1名、優良賞1名 ・第34回読書感想画中央コンクール結果 [三重県審査] 指定部門最優秀賞1名・優秀賞1名・優良賞1名・努力賞1名 / 自由部門最優秀賞1名・努力賞1名 ・三重県総合文化センター大ホールにて芸術鑑賞会(演劇)を実施しました。全校生徒に加え、93名の保護者参加がありました。 	※

改善課題

- ・図書の利用促進については、貸出冊数が2月時点で目標としていた8,000冊はクリアしたものの、生徒貸出利用率が目標に届きませんでした。今後は、よりたくさんの方の生徒に図書館を利用してもらうことが課題です。
- ・読書コンクールについては、県内審査において感想文、感想画ともに最優秀賞を受賞し全国コンクールに進みました。今後は全国で入賞することが課題です。
- ・図書館を文化情報センターとして位置づけた活動については、校内外における諸活動とつながることができました。しかし、諸行事に参加する生徒に偏りがみられたこともあり、今後は生徒のニーズをより考え、普段図書館に立ち寄らない生徒を巻き込んでいく必要があります。
- ・芸術鑑賞会については、生徒が日頃体験できない芸術作品に触れることのできる貴重な機会として捉え、有意義な内容選定を行う必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
健康教育	<p>◇保健管理と保健教育、健康相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。 健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。 学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健講話(各学年1回) 「保健だより」の年10回発行 <p>◇救急時の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 安全に対する意識を高める指導を行います。 救急体制の充実を図ります。 <p>◇感染症予防への取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 感染症の早期探知及び生徒健康状況の把握を行います。(欠席状況調べ、健康観察等) 感染症を未然に防ぐ取組を進めます。(手指消毒液等の環境整備、感染症に関する保健指導等) <p>◇教育相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。 生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。 保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年12回以上) 「教育相談だより」の年3回以上の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 保健講話:1年生の性教育、2年生の薬物乱用防止教室、3年生の受験期の健康管理を実施しました。 「保健だより」は定期号を10回、修学旅行前特別号(2年生)を1回、受験号(3年生)を1回発行しました。 救急救命講習実施の代替として、救急救命法に関する動画の配信を全教職員対象に行いました。 手指消毒液自動噴霧器、サーキュレーターの設定等、感染症対策を継続して実施しました。 スクールカウンセラーによる教育相談は、33回実施しました。 発達障がい支援員による面談は3回実施しました。 教育相談だよりは4月と8月、1月の計3回発行しました。 	

改善課題

- 感染症対策に関して、学年団・他分掌と連携を取りながら、学校全体の取組として継続していくと同時に、拡大防止にしっかりと努めながらも、状況に応じて柔軟に対応していく必要があります。
- 継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、危機発生時の救急体制について、教職員の共有をより強化していく必要があります。
- 担任、保護者、学年主任、養護教諭、管理職、関係する専門家と密に連携をとりながら生徒の支援を行いました。自ら相談に訪れる生徒は少ないので、相談しやすい環境を作り、担任や学年主任と情報共有し、丁寧な支援を行っていく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
防災教育	<p>◇防災学習の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 避難経路、避難方法を年度早期において確認します。 より実的な場面を想定した避難訓練を実施します。 「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練、防災学習の実施(年各1~2回) 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内からの避難経路について生徒、教職員で確認、共有しました。(4月) 校舎外へ一斉避難する訓練は雨天のため実施できませんでしたが、「防災ノート」を用いて学校内外および家庭での防災意識を高める学習を行いました。(10月) 	※

改善課題

- 日常的に防災意識を高める学習活動を継続的に行う必要があります。
- 避難経路の設定、非常時を想定した訓練方法など、引き続き検証を続ける必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
探究的活動の推進とSSH事業への取組	<p>◇探究活動を核とし、全ての教育へつなげる科学教育システムの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 探究心を醸成し、創造性、協働性、課題解決能力を育みます。 2 SSH探究活動を中心に、主体的・対話的に課題を追求できる仕組みを構築します。 3 校内外の児童・生徒が相互に刺激を受けながら資質・能力を高め合う取組を実施します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」の実施 ・「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」の実施、「SSH児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・「SS探究活動Ⅲ」において、2年次の研究成果の論文作成、学会やコンテストで発表 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」の実施 ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」「SSH台湾研修」等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「夏季フィールドワーク」、「試行的な課題研究」を実施しました。 ・「SS探究活動Ⅱ」において、「課題研究」を実施しました。 ・「SS探究活動Ⅲ」において、論文作成を実施しました。 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」を実施しました。 ・「SSH児童・生徒研究発表会」、「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」「SSH台湾研修」を実施しました。 	◎

改善課題

- ・「SS探究活動」において、生徒が研究を深めるためには、対話やディスカッションの活動を充実し、研究テーマの設定に十分に時間をかける必要があります。1年生で試行的な課題研究に取り組んだ経験を2年生の課題研究へ接続することが必要です。そのための工夫として、1年生で興味のある研究テーマをやや大きく設定する方法が考えられます。
- ・教科・科目の授業をはじめとするすべての教育活動で探究的な学びの機会を提供するとともに、探究活動で身に付ける協働的な議論の手法、思考の整理方法や学びに対する態度の醸成をさらに図ることが課題です。そのためにも上級生が下級生に対して指導助言できる機会をカリキュラム内に積極的に設けることが必要です。
- ・校外の発表会への参加者数や論文コンテストへの挑戦者数の増加をはかることが課題です。学年、サポート教員、各教科や分掌、外部支援者等と密接に連携を図りながら、生徒がより一層主体的に探究することを通して参加への意欲が高まるよう、適切に支援する必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境・美化教育	<p>◇環境美化、公共性の向上に向けた取組</p> <p>【活動指標・成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック ・美化委員によるゴミ分別のチェック(原則毎日) ・環境美化改善へ、生徒のアイデアを取り入れた取組の実施 <p>◇環境問題に対する意識の醸成</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境週間」を設け、その一日を「学校環境デー」として美化委員で美化活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会を6回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック等を行いました。 ・集積場でのゴミの分別を美化委員がチェックしました。 ・学校環境デーを6月29日に実施し、校内の清掃活動を行いました。参加者は美化委員24人・教職員5人の合計29人でした。 	

改善課題

- ・ゴミの分別は、地域によって分別方法が異なり、分別が紛らわしいものについては徹底が難しいことから、生徒・教職員への周知を徹底する工夫がより必要です。
- ・環境デーについては、生徒同士が密になる機会を避けるため、美化委員のみでの活動としました。今後の状況に応じて、学校全体で取り組める美化・環境活動の内容の検討が必要です。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組と教育課程の研究・改善	<p>◇授業力向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究や授業公開、授業評価等とおして、授業力の向上を図ります。また、ICTを活用することによって教員の業務負担を軽減させ、取組に必要な時間を生み出します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業力向上に向けた各教科の取組シート」の作成 全教科1回以上の授業公開の実施 教科内において、授業研究を実施・研究協議の充実・教員相互で、授業力を向上 保護者を対象とした授業公開の実施 生徒についてのデータベース構築及び一括管理 ICTの活用についてのサポート プログラムを利用した業務の自動化とその提案 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科における、授業アンケートの、授業改善のための資料としての活用、成果の検証 <p>◇「カリキュラム・マネジメント」の視点から、日々の教育活動について組織的に改善をおこない、また、探究的な学びの指導方法や評価方法についての研究を行います。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導委員会を中心とした様々な教員による、指導方法・評価方法の検討および実践の検証 観点別評価についてのデータ収集及び情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で「授業力向上に向けた取組シート」を作成しました。 各教科(全教科)で授業公開を実施しました。 保護者対象の授業公開を5月に実施しました。 観点別評価を実施し、各教科の取組について情報共有して改善点を検討しました。また評価のあり方について改めて全体共有を行いました。 	◎

改善課題

- ・ほぼすべての業務でICTを活用できており、それに必要な教員の数は減らせています。一方で情報共有・発信については課題があり、発信方法を一本化したり集約することにより、さらなる業務効率をはかる必要があります。
- ・教科や学年を横断して学校組織として取り組む必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導に関する情報共有 大学入試問題の分析や校内外模試を活用することによる教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導体制の構築 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学入試の変更等にかかる情報提供 新課程による2025年度入試についての情報提供 校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会の実施 各予備校等の分析会・大学説明会の情報発信 校内外模試の作問・分析を通して教員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 新課程に伴う新入試については、各大学からの時期が異なる為、情報提供が出そろった時点で変更時の混乱を避けるため情報を共有することとします。 校内外の成績データを基に分析会を実施し、情報交換や指導方針を共有しました。 予備校等の分析会・大学説明会の案内を随時行いました。 	

改善課題

- ・大学入学選抜が複雑化する中、生徒個々に応じた対応をしていく必要があります。また、一定の教員に頼ることなく津高校教員全員がさまざまな指導ができる能力やスキルを身につける必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育に関わる情報、方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権教育に関わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・「人権だより」の発行、研修会の開催等 ・人権教育推進協議会の設置と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催、人権教育推進計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育の意義について考える」研修を8月に行いました。 ・教員研修の振り返りを「人権だより」と職員会議で行いました。 ・人権教育推進協議会を開催し、委員から多くの意見をいただきました。 	

改善課題

・教職員の人権意識をより高める研修を、さらに充実させる必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒情報および指導方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細かな支援を行います。 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・学年会等での生徒情報交換の実施 ・面談週間をはじめ、随時面談を実施 ・綿密な保護者との連携、情報共有 ・より良い関係性構築に向けた校内での情報共有 ・特別支援教育にかかる教員研修の実施 ・特別支援教育委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談に関する研修会を11月に実施しました。 ・特別支援教育推進委員会を年2回(4月・1月)実施しました。 	◎

改善課題

・不登校の生徒が増加傾向にあることから、不登校支援に関わる研修を行いました。今後も実態に即した有意義な研修となるよう努めます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 85%以上 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校できた教職員の割合 97.0% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・60分以内に終了した会議の割合 85.7% ・年360時間を超える教職員数 31人 ・月45時間を超える教職員の延べ人数 147人 ・月平均時間外在校等時間 28.1時間 ・年間休暇取得日数平均 17.2日 	

改善課題

・ICTの活用やSSS(スクール・サポート・スタッフ)の活用等により業務の改善を進めていますが、年360時間を超える教職員数、月45時間を超える教職員数等は増加しました。特定の期間に時間外労働は増加する傾向があるため、定時退校日や部活動休養日の設定等を行う等、総勤務時間を縮減する取組を継続します。

項目	取組内容・指標	結果	備考
広聴・広報活動	<p>◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会の実施(年2回) <p>◇ホームページ(HP)の活用、自治会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にHPを通じた情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPを改善するとともに、連絡や行事等の活動・成果を掲載するため随時更新を行います。 ・「津高校だより」の発行(年間6回程度) ・報道機関への情報提供(年間5回程度) <p>◇津高入門講座(8月)、学校見学会(8・10月)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生が実際に活動している様子を中学生に公開し、本校の教育活動を理解してもらいます。 ・10月にも「ミニ見学会」を企画し、本校の教育活動を中学生に紹介する機会を増やします。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケートの集約 <p>◇学校PR用動画、パンフレットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となって学校PR用の動画およびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各中学校(生徒・保護者)への必要数配付 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会を2回開催しました。(第1回・6月、第2回・2月) ・HPの更新を53回行いました。 ・情報発信の取組として、外部サービスを利用しホームページを刷新し運用開始しました。 ・「津高校だより」2回発行 ・津高入門講座(8月)には中学生418名、保護者341名の参加申込がありました。 ・学校見学会(8月)には中学生686名の参加申込がありました。 ・津高入門講座、学校見学会ともに、参加者アンケートの結果で「受検校選択の参考になった」との回答が98.1%以上でした。 ・8月に予定通り津高入門講座、学校見学会を実施したため、「ミニ見学会」は開催しませんでした。 ・生徒から募集したデザインで学校案内、クリアファイルを作成し、入門講座、学校見学会で配布しました。 ・各中学校に学校案内を必要数配布しました。 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを刷新することができましたが、より良い情報発信の手段となるよう、今後の運用方法などをさらに検討していく必要があります。 ・これまでの広聴・広報活動に関わる取組継承しつつ、ICTの積極的な活用を進めていく必要があります。 			

5 学校関係者評価

明らかに なった 改善課題と次へ の取組方向	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒アンケートで「学校へ行くのが楽しい」「学校行事に楽しく積極的に参加できている」などの項目で肯定的な回答の割合が非常に高い（95～96%）ことが評価されました。一方で、「意欲的に学習に取り組んでいる」「気軽に相談に応じてくれる先生がいる」の項目については、肯定的な回答の割合は多いものの、76～77%にとどまっている（生徒の4人に1人程度が否定的な回答をしている）ことから、生徒の状況を見ながら原因を分析し、改善に努めていくことが今後求められます。○ 学校のホームページが刷新され、大変見やすい情報発信となったことは評価されています。一方で、保護者の立場からは、情報発信の中の「進学実績」という結果的な数値に大きく注目してしまうという指摘があったことから、生徒が高い志を持ち、高校生活を3年間意欲的に送って進路を実現できるよう、学校として一層尽力することが求められます。○ 学校図書館におけるさまざまな企画や活用が評価されたことから、本校の魅力を発信する一つとして、今後も強化したいと考えています。○ 本年度から始まった一人一台端末の活用については、今後、小中学校で活用していた生徒が入学してくることから、授業での効果的な活用を引き続き研究していく必要があります。
---------------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none">○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等については、授業アンケートの結果だけでなく、職員が互いに授業を見合い、研究協議を行うなど、日常的な取組を引き続き進めます。○ 授業改善には、生徒の理解度だけでなく、「生徒に必要な力が育まれているか」という視点から絶えず検証する必要があります。限られた授業時数の中で、効率的な学習指導ができてきている先進校の取組も参考にしながら、必要に応じて授業計画や授業方法を検証します。○ 令和4年度入学生から導入した一人一台端末が、授業や学習課題において一層効果的に活用されるよう、他校における活用事例等も共有するとともに、教員研修を計画的に実施するなどにより、取組を進めていきます。○ 令和5年度からスタートするSSH第IV期の研究開発計画に基づき、生徒たちが探究活動を通じて創造性、国際性、課題解決能力の向上を図るとともに、国際科学技術コンテスト等のより高い目標に挑戦できるよう、教職員全員が「チーム」としてかかわり、生徒の活動を支援します。
学校運営につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none">○ ICT機器や自動採点システム等を教職員全員が有効活用して、業務の効率化を図り、負担を軽減することにより、授業研究や教科指導等にかかる時間を十分確保し、質の高い教育活動を展開します。○ 生徒が高い志を持ち、希望の進路を実現できるよう、教員間で必要な情報を共有し、データを効果的に活用した進路指導を実践します。○ 生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、教職員全員がいじめや不登校、特別な支援が必要な生徒への対応、人権問題などについて、引き続き理解を深めるとともに、課題があれば早期に発見し、迅速に対応できるようにします。○ 令和4年度に刷新した学校のホームページを活用し、学校の情報発信を効果的に行います。○ 業務の精選、SSS（スクールサポートスタッフ）の活用、会議時間の短縮等により、時間外勤務を削減することにより、教職員が一層活力を持って教育活動に取り組めるようにします。